

ワークスタイル
変革に対する
企業の取り組み

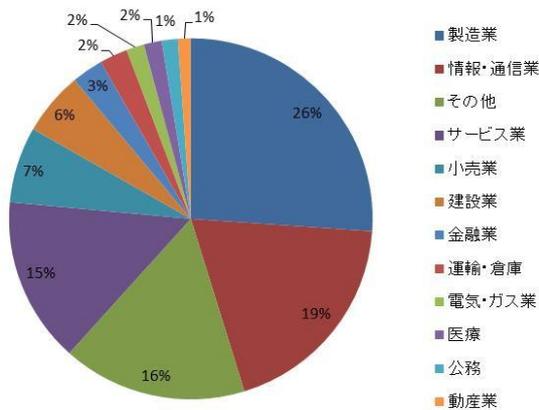
1. レポートサマリ

第3回ワークスタイル変革 EXPO を通じて、来場者がどのようなワークスタイル変革へ取り組んでいるのか、取り組みの計画状況や注力ポイントについて、リコーブース来場者アンケートを元にレポート形式にまとめました。御社内でのワークスタイル変革への取り組みを行う上での参考にいただければと思います。

2. 回答者情報

今回のレポートは、リコーブースに立ち寄っていただき、アンケートにご協力いただいた 1,322 名の回答結果を元に作成しています。回答者の業種で上位 3 業種は、製造業が 26%、情報・通信業が 19%、サービス業が 15% となっており、以下小売業、建設業、金融業、と続きました。職種で見ると、上位 3 職種は、総務・庶務が 21%、営業・販売が 18%、情報処理・情報システムが 16% となっており、以下企画・調査・マーケティング、経営企画、技術・設計と続きました。

【回答者の業種内訳】

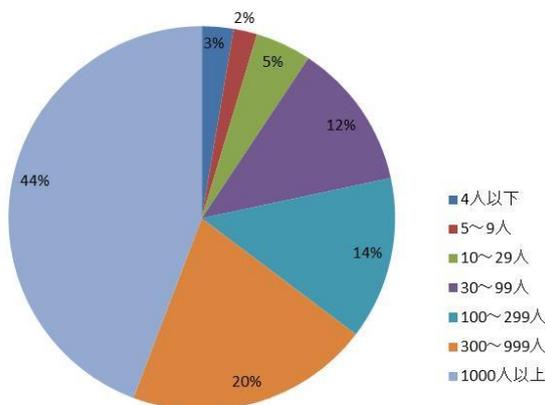


【回答者の職種内訳】



また、企業規模別にみると、従業員数 1,000 名以上の企業が約半数を占めており、ついで 300~999 名、100~299 名と 100 名以上の企業で約 8 割を占めています。

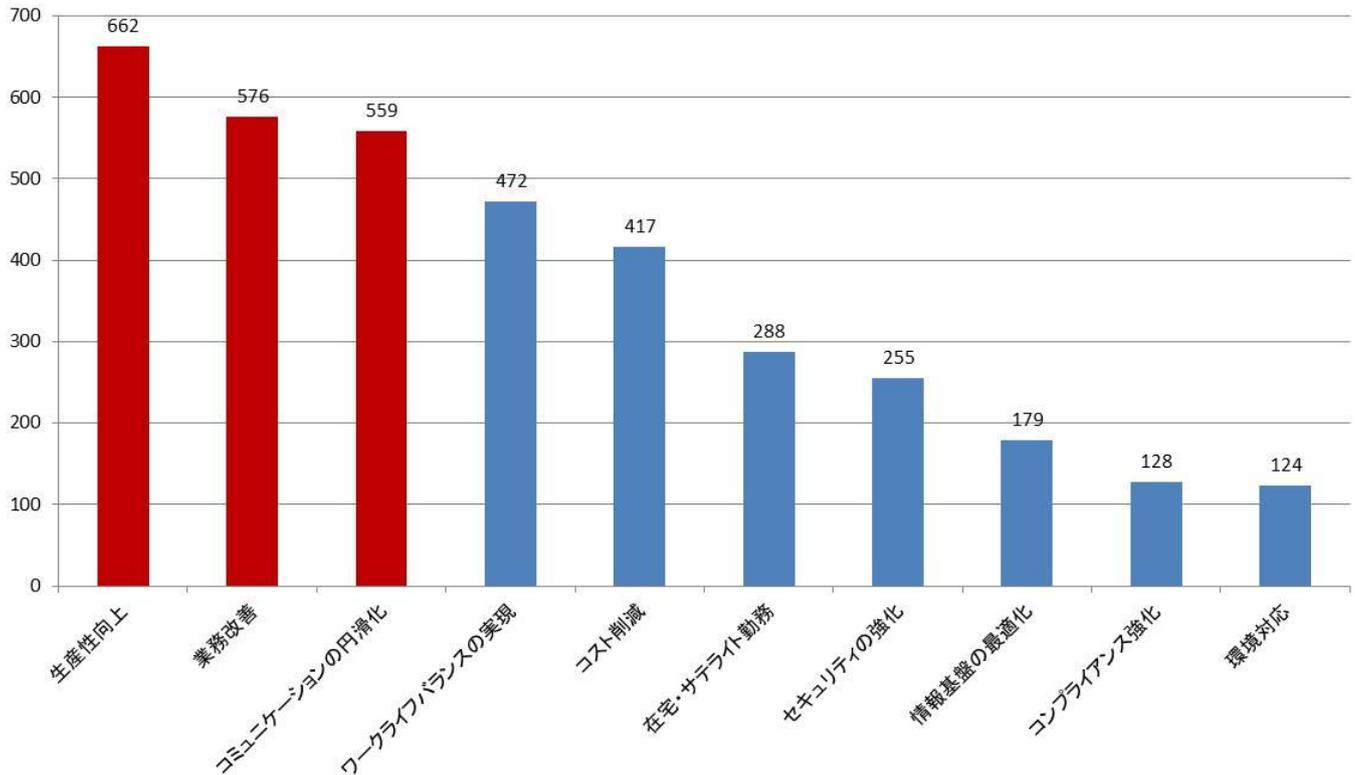
【回答者の企業規模】



3. ワークスタイル変革へ取り組む目的

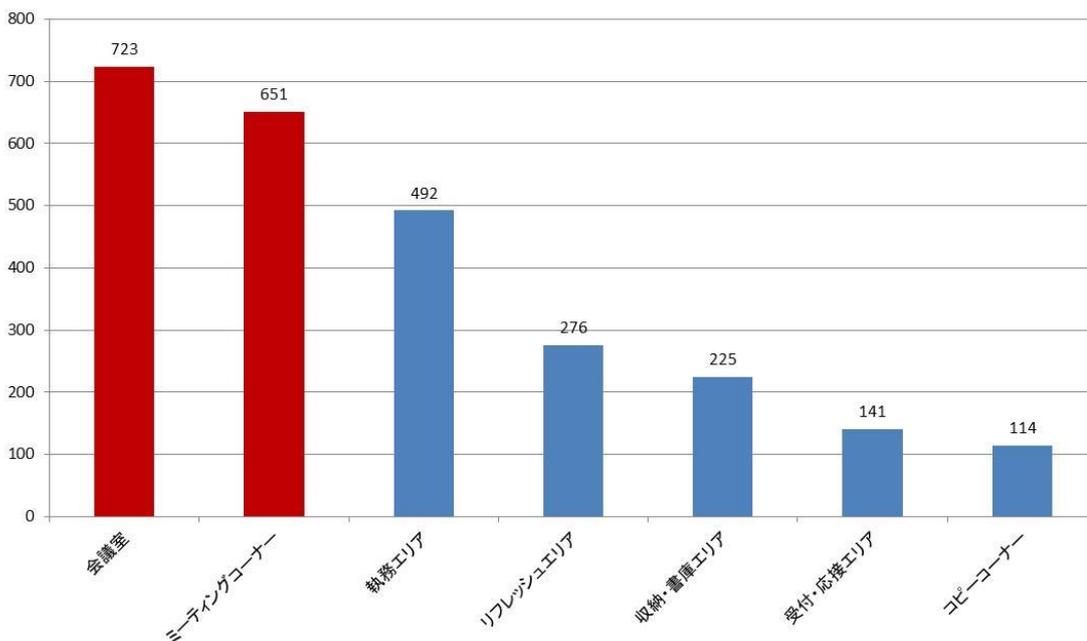
各社のワークスタイル変革へ取り組む目的について、上位3つは、生産性向上、業務改善、コミュニケーションの円滑化となりました。2015年の同展示会での同様のアンケート結果では、生産性向上が3位でしたが、今年は1位になっています。昨年2位でしたコスト削減が、今年は5位となっており、コスト削減面よりも生産性の向上に関わる目的での取り組みが増えてきていることが明らかになりました。

【ワークスタイル変革へ取り組む目的(複数回答)】



また、オフィスで改善を行いたい場所も会議室、ミーティングコーナーが上位を占めており、生産性向上のために会議室の改善へ取り組みたいという結果になりました。

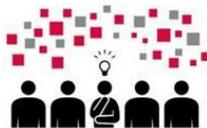
【オフィス改善希望の場所(複数回答)】



4. 「HUDDLE WORKPLACE」のコンセプトと関心コーナー

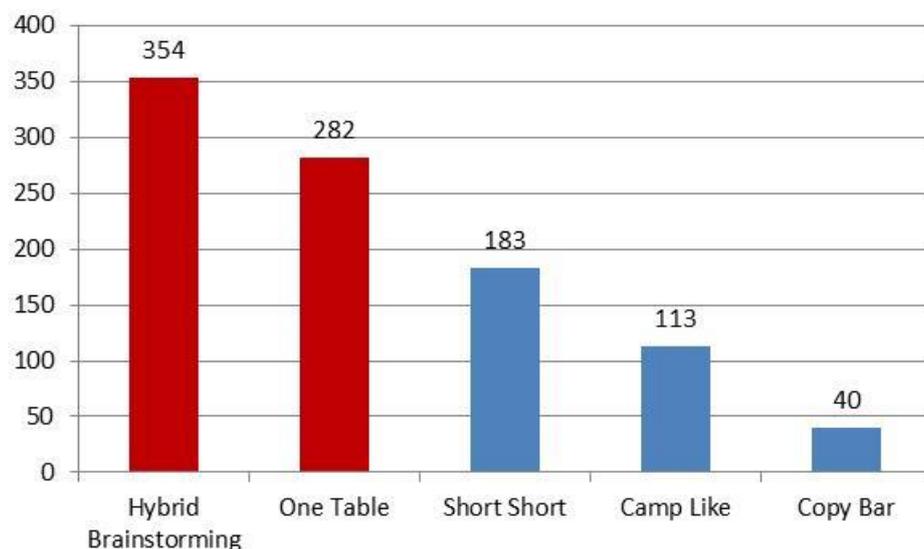
ミーティングをしたい時、すぐにメンバーが集まりコラボレーション。迅速に意思決定を行い、すぐに解散して仕事に戻る。リコーのビジュアルコミュニケーション製品は、こうした生産性を高める新しいワークスタイルの実現をご支援します。リコーではこの新しいワークスタイル（“いつでも・どこでも・だれでも・だれとでも”）を「ハドルコンセプト」と呼んでおります。

今年のワークスタイル変革 EXPO でリコーは、「ハドルコンセプト」を5つのスタイルとして、「HUDDLE WORKPLACE」というテーマでビジュアルコミュニケーション製品とワークプレイスデザインの組み合わせでワークスタイル変革のアイデアを展示してまいりました。

				
One Table	Hybrid Brainstorming	Short Short	Camp Like	Copy Bar
顔が見えるだけのテレビ会議を超えた、空間を共有する遠隔ミーティングを手軽に実現	アナログとデジタルを融合した、アイデアを生み出すプレスタイル	ふと始まり、効率的に終わるスタンディングミーティング	セットアップが容易なVC機器や家具による、フレキシブルなミーティング拠点の構築	偶発的な交流を生み出す、複合機廻りのコミュニケーション空間デザイン

この5つの展示の関心度を調べたところ、Hybrid Brainstorming、One Table という会議室の改善を通じた生産性向上のコーナーが関心を集めていました。

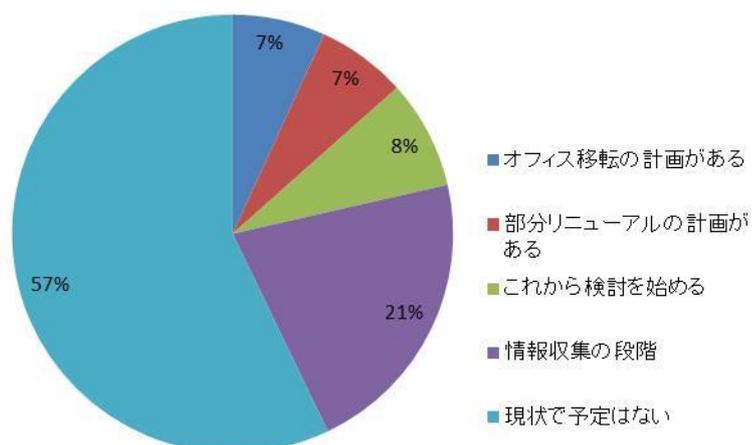
【Huddle Workplace で、関心を持たれたコーナー（複数回答）】



こうしたワークスタイル変革につながるオフィス移転・リニューアルを計画している企業が、14%となりました。また、検討や情報収集を行っている企業が29%となり、現状にとどまらず、変革に向けて何らかの取り組みをしている企業が40%以上に上る結果となりました。

リコーでは、具体的な計画を始める前段階において、現状のレイアウト図面から、客観的にオフィスを把握するための「現状レイアウト評価サービス」を行っています。図面上から読み取れる基本的な数値を明確にでき、課題解決の具体的な方向性を決める判断材料となりますので、ぜひご活用ください。

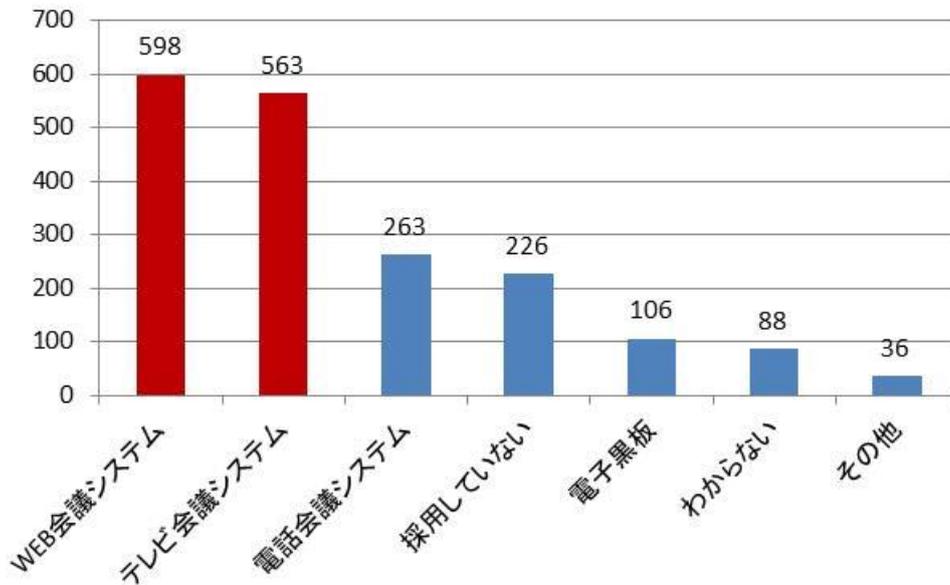
【オフィス移転・リニューアルの取り組みの予定】



5. 会議ツールの採用状況と課題

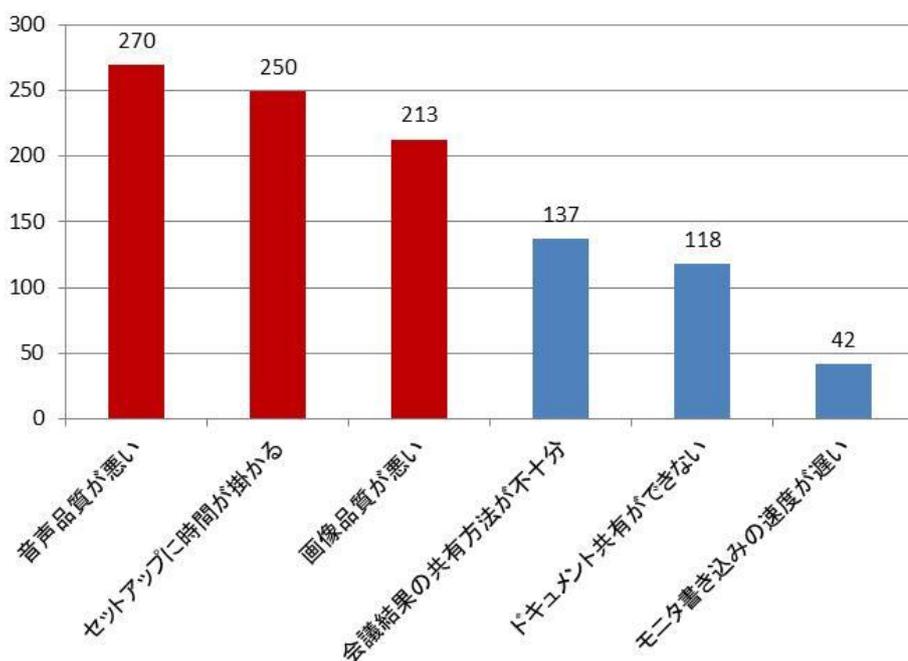
生産性を向上するために、遠隔地との会議のためのテレビ会議や電話会議は一般的になってきました。各社の会議ツールの採用状況についてのアンケートでは、WEB 会議システムとテレビ会議システムの採用がほぼ同水準で1位、2位となりました。映像を通じて情報を共有できる WEB 会議、テレビ会議の採用が進んでいることが明らかになりましたが、一方で電子黒板を組み合わせた会議システムを採用している企業はまだ少ないこともわかりました。

【採用中の会議システム（複数回答）】



また、採用している会議システムでの課題については、音声品質が悪い、セットアップに時間が掛かる、画像品質が悪いという点が上位3つの課題となりました。

【会議システムの課題（複数回答）】



リコーが提供するテレビ会議・Web 会議システムならびにインタラクティブホワイトボード（電子黒板）は簡

単操作で利用がスタートできる特徴を持つビジュアルコミュニケーション製品で、“いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも” 会議を行うことが可能です。

リコーのテレビ会議・Web 会議システムは、インターネット経由でサービスを提供する、これまでにないコミュニケーションシステムです。

また、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、どのような端末からも会議に参加することが可能なアプリケーションもご紹介します。

導入前に検討するための 30 日間の無料トライアルもご紹介しますので、検討中のお客様はぜひ一度体験ください。

リコー のインタラクティブ ホワイトボード（電子黒板）は、パソコンなどのデータを映し出すだけでなく、専用電子ペンでディスプレイに直接書き込んだり、離れた拠点と書き込みを共有してのコミュニケーション*を実現。あなたを創造性に満ちた新しいワークスタイルへご案内します。



【本レポートに関するお問い合わせ】

株式会社リコー

ビジネスソリューションズ本部

ビジュアルコミュニケーション事業センター

〒222-8530 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-2-3

TEL : 045-477-1511 (代表)

http://www.rc-club.rioh.co.jp/event_workstyle-expo_request